



九州大学 大学院比較社会文化研究院 教授
中橋 孝博

【研究の背景】

日本人はどこから来たのか？ 明治以来のこの懸案については、今なお多くの謎をめぐって議論が続けられています。長年にわたって縄文人が住んでいた日本列島に、二千数百年前、大陸から水田稲作などの先進文化とともに渡来人が流入し、現代日本人はこの両者の混血によって形成された、というのが、いま多くの支持を集めているシナリオとなっていますが、実は先住の縄文人も、そして後来の弥生人もその起源がよくわかっていません。

【研究の成果】

これら日本人の祖先集団のルーツを求め、まずは弥生人問題を解く鍵として水田稲作の伝播に着目して、その原郷である中国江南地方の古人骨調査を実施しました。その結果、当時この地に弥生人そっくりの人々が住んでいた事実が明らかとなり、有力な起源候補地として浮上してきました（図1）。その後、古代中国の人・文化変容の震源地であった中原地域（河南省一帯）の調査を経て、現在は山東省・青島の新石器時代人の調査を進めています。それはこの地が水田稲作の伝播ルートと目されているためですが、これまでのところ、少なくとも新石器時代には弥生人とはやや異なる住人のいたことがわかってきました。

一方の縄文人については、現在、大陸北部の沿海州やモンゴル、そして南方起源解明の鍵となる先島諸島での発掘調査を実施しています。そんな

中で、我々の発掘ではありませんが、新石垣空港の工事現場（白保竿根洞原洞穴）から出た人骨片を研究分担者の米田稔氏が測定したところ、約二万年前の更新世人類であることが明らかになりました（図2）。

【今後の展望】

大陸や列島周辺には、縄文人や弥生人の起源探索を阻む資料空白域が多く残されています。その一つである山東半島南岸において、今後もし住民形質が後世に弥生人に似た人々へと変化したことが確認できれば、江南→山東→朝鮮半島（あるいは直接九州）→九州、という、具体的な伝播ルートが浮上するかも知れません。もう一つの縄文人の起源探索については、いまだ発掘による新資料には出会えず悪戦苦闘中ですが、しかし目的達成には掘り続けるほかに道はありません。新たに出現した石垣島の更新世人類は、こうした縄文人の南方起源探索の取り組みに大きな弾みを与え、今後の調査進展に期待を抱かせています。

【関連する科研費】

平成13年度 研究成果公開促進費「Ancient people in the Jiangnan region, China」

平成15-18年度 基盤研究(A)「中国・中原地域の古人骨に関する人類学的研究—渡来系弥生人の起源を巡って」

平成20-23年度 基盤研究(A)「日本列島と大陸との人の交流に関する人類学的研究」



▲図1 福岡市の金隈遺跡弥生時代人骨（左列）と、中国・江蘇省の前漢時代人骨



▲図2 新石垣空港の工事現場と更新世人骨が出土した白保竿根洞原洞穴。



▲沖縄・宮古島での発掘調査（2009年11月）残念ながら、この発掘では先史人骨を発見できなかった。